

## マタイの福音書 第9章 9節

「イエスは、そこを去って道を通りながら、取税所にすわっているマタイという人をご覧になって、『わたしについて来なさい』と言われた。すると彼は立ち上がって、イエスに従った。」

家庭集会に参加するため少し長いドライブとなる。カーナビを一応作動させ目的地に向かう。幾度も訪れた場所なのでカーナビに頼る必要はない。それでも作動させておくと何となく安心である。それが未知の場所への旅となればナビは必須である。案内通りに進んでも、目的地に到着するまで多少の不安はある。この道で本当によいかどうか。このまま進んでもよいのだろうか。ナビを見ながら思いは巡る。

見ているにもかかわらず、こころが落ち着かないことはよくある。路上で声を掛けられ、「わたしについて来なさい」と言われても、その後の道がどのようなになるのかわからない。道の果てがどうなるかも、この一言の呼びかけからはまったく想像もつかない。わかっていることは呼びかける方がいることと、確かに聞こえる声である。

結局はその方とその声に聞き従うことで道はわかるようになり、道の手応えを体験することになり、呼びかけてくださるお方にどこまでも信じ従うときにこそたどり着く先が確かとされる。

2023年7月1日